



# 2022年度 グリフィンス便り No.3 VS 立教ラッシュャーズ

## 《慶應戦戦績》

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
明治大学	7	17	7	7	38
慶應大学	0	0	0	6	6

## チーム記録

	明治大学	慶應大学
パス 獲得ヤード	160	149
ラン 回数/獲得ヤード	31/208	27/84
攻撃 回数/獲得ヤード	53/368	61/233

日大戦の悪夢から目覚め、荒々しくも悠々とし、反則も、ミスも少なく冷静さを持って慶應ユニコーンズの息の根を止めた。

オフェンスは#6森川、#39廣長が確実に1回あたり7ヤードゲインと、その強さを見せつけた。ランができることでパスも通り、#85桑村の35ヤードTDは、1年生とは思えない堂々としたプレイで、今後が非常に楽しみだ。

ディフェンスは守護神#2野村を中心に盤石で、#4栗原のインターセプトロングゲインも慶應オフェンスにダメージを与えた見事な守りだった。

個人記録	回数	獲得ヤード	ロング	av	TD
ラン					
#39廣長晃太郎 (2年)	12	84	14	7	0
#6森川瑠偉 (4年)	11	79	16	7.1	0
#1吉田拓郎 (4年)	6	38	9	6.3	2
#80井上太陽 (2年)	1	4	4	4	0
#31高橋周平 (1年)	1	3	3	3	0
レシーブ					
#8デコウト大貴 (4年)	3	37	26	12	0
#10羽深素 (4年)	2	39	29	20	1
#0山口翔 (3年)	2	18	1	6	1
#85桑村登 (1年)	1	35	35	35	1
#80井上七海 (4年)	1	18	18	18	0
インターセプト					
#4栗原勇太 (4年)	1	21			
#41岩島勇人 (4年)	1	0			
QBサック					
#33櫛谷彰吾 (3年)	1	5			
#93今熊力丸 (3年)	0.5	6			
#19山下遼太 (2年)	0.5	6			

## 立教戦みどころ

法政戦では30対20と、攻め込んだように見えるが、後半戦力を落とした法政のミスもあってのこのスコア。前節慶應戦でリターンタッチダウンを奪ったエース#29RB岩月が法政ディフェンス陣に封じ込められ、結果#10宅和のパスも通らず、思うように攻撃できず、この結果となったと思われる。

共にアメリカンフットボールのルーツ校である立教との闘いは、負けるわけにはいかない。ここから先、上位ブロックに進むためにも、絶対に落とせない一戦になる。

見どころは、オフェンス陣のセカンドエフォートと、ディフェンス陣の瞬殺。

もう一つは、キッキング。立教の俊足リターナーをここでも瞬殺・阻止し、明治のリターンがどれだけ敵陣まで近づけるか。攻守の陣取りが勝負を分ける。

天下分け目の天王山